

小学校

ジョルジュじいさんが死んでしまったとき、なみだが出てきて止まりませんでした。ジョルジュじいさんもロベールも本当に優しい心をもった人だと思いました。こんな良い話で勉強できる道德の授業が大好きです。これからも、素敵な話を聞かせてください。

最初、サムの自分勝手さにむかついたけど、ピエロの言葉から、一生けん命に頑張ろうとしているサムのよさに気づくことができました。私は、どちらかと言うと人に対する好き嫌いが強い方だけど、あまりその人の良いところをみようとしてなかったかなあと思います。この話のピエロさんのようにはなれないかもしれないけれど、もっと広い心で友だちのことも見ていきたいと思っています。

自分がこの手品師の立場だったら、あの男の子にあやまってでも、ぜったいに大劇場に行ったと思います。でも、「もやもやししながら手品をしても、うまくできないかもしれない」とか、「男の子との約束を守る」と言っていた人たちの理由を聞いているうちに、この手品師は自分に対してうそをつかないという意味での誠実な人なんだなと思いました。よく考えてみたとき、私も、自分自身に正直に、納得のできる生き方を大切にしたいと思いました。

中学校

余命数か月と言われた母親の「子どもの卒業式までは生きたい」という思いが奇跡を生んだ話に感動した。特に、必死の思いで台所に立ち、おむすびを作った母親を思って、その最後のお弁当に手を付けられなかった娘さんの姿には涙が出てしまった。命は大切なものと強く思った。

最初は、自分も元さんと同じように二人の子どもたちを入園させると考えた。いくらきまりとは言え、二人の状況を思うと、思いやりを大切にする方が大切だと考えたからだ。でも、「何にもなく、無事に二人が発見されたからよかったものの、もしけがでもしたり、死んでしまったりしていたらどうするの」という意見や、「あのきまりは、それほど冷たいものでもないと思う」と言った人の理由を聞いて、きまりのもつ意味や大切さについて、改めて考えることができた。

ぼくにも、部活でライバルといえる友達がいる。負けまいと思って頑張っても頑張っても追いつけない時、正直自分に自信がなくなり、その友達がうとましくさえ思ったこともあった。そして、そんな自分が嫌になった。それでも、これまで彼とずっとライバルでいられるのは、お互いのそんな思いを伝え合って、共に伸びていこうと話しかけたからだ。これからも、そんなお互いを高め合える関係を大切にしていきたいと考えている。